

## 資 料

## 松花江發電所上棟式舉行さる

水力電氣建設局 技佐 山 本 將 雄

紅葉をなす十月三日秋晴れのもと、此處、吉林大豊滿に於ては松花江發電所工事に上棟式が盛大に舉行された。

此日祭壇は水面下四十尺の岩盤に掘下げられたる「ドラフト」の出口に設けられ、各大臣以下來賓一千名は續々と參集地底より天空に聳ゆる發電所建物に山腹遙かなる堰堤標識に讚歎驚異の目をみはりつつ式典に參列終りて、發電所、水壓管及堰堤工事を一巡の後堤體混凝土「ブロック」上の設けられたる宴會場にて山峽の風色を賞でつつ充分の歡を盡して散會した。

省れば本工事は康德四年末着工以來まる3ケ年幾多の困難を突破して此處に出目度くも上棟式を行ふに至つたが此の間誠に感慨新なるものがある、此處に着工以來の工程を回顧して右報告の任を果し度い

そもそも本工事は建國早々大同元年及二年に亘る北滿の大洪水に際會し政府に於ては急舉國土開發の大治水事業を計畫し大松花江調節の八大貯水池の一つとしての豫定のもとに鋭意調査中であつたが更に新興滿洲の産業五ケ年計畫として電力開發の脚光を浴び急速に具體化し政府直營のもとに水力電氣建設局の開設を見愈々本工事に着手さるるに至りたるものである、即ち康德四年一月局の開設せらるると共に吉林上流24軒民家23軒に過ぎざりし此處豊滿の部落へ直ちに吉林より軌道、道路、鐵道を布設し現地には近代的なる都市計畫を行つた。

一方本局ではあらゆる準備事務に忙殺され諸機械器具の發注に、陣容の編成に、計畫設計の促進に、全力を盡し四年末には早くも地質調査も完了盛大なる起工式と共に大松花江右半部締切に着手本工事のスタートは切つて落された、かくて嚴寒40度を犯しての突貫工事は見事4月迄に之を竣工せしめ康德5年よりは愈々河底の基礎堀鑿と本體混凝土打設に着手假設備乍らも4萬米の混凝土を施行して10月を以て嚴肅なる定礎式を舉行大自然の岩盤と人工の混凝土とは永遠の結合が約された。

以來右岸山腹40米に達する表土堀鑿に、硬岩至難の發電所基礎に人力と機械力の限りを盡し一方工事に諸設備も着々と整備し6年度末に於ては200萬立米の堀鑿を完了、右岸部混凝土も20萬立を打設して豫定通り左岸の締切切換工事に全局の運命をかけて着手したのは寒冷漸く加る10月も半ばであつた

此の間屢々洪水の危期にもさらされたが當事者一同の獻身的努力により見事自然の猛威に打勝つを得たのであつた。

斯くて問題の左岸締切は未曾有の難工事として全局一致強力なる決心のもとに着手され土木技術の粹を盡して結氷中の沈床作業に土堰堤築造に水中混凝土施工に「ニューマチックケーソン」工法に或は「ケーソン」中に於ける鐵矢板の使用等時々刻々上下する水位に全局の神經を集中し工事擔當者は勿論局長自らも睡をとらざる事數次、技術と天祐と身命をと

したる技術者の貴き犠牲とにより早春4月さしもの難工事も最後の凱歌を擧ぐるを得、時の星野長官をして産業5ヶ年事業報告會に於て本年度3大收獲の一つとして大松花江の締切を擧げ實に滿洲技術のモニュメントなりと稱言せしめた、更に天祐はその後の解氷並びに今夏洪水をして近年になき平穩なる出水を見左岸本體混凝土並に發電所工事は全速力にて進展を遂げ堰堤基部混凝土は全長に亘りて展開され「ドラフト」据付も終り發電所鐵骨並に250屯「クレーン」も目度度く碧空に仰ぐに至りたるは我國産業開發史上慶賀にたへない次第にして誠に省れば物資いよいよ緊迫を加へし此の一兩年に於て困難なる大自然を克復して免にも角にも以上の如き豫定の工程を進むるを得たるは我々一同忘れ難き感激を覺ゆるものである。

此處に上棟の式を擧げ清秋の一日杯を傾むけて龍神の加護を謝し且は朝野諸氏の御高覽にそなへたる次第である。

斯くて本年7年末に於ては既に軀體下部大半の混凝土を施行し右岸假排水路は再び寒中混凝土施行により愈々大松花江最後の止どめを刺さんとし一方工所用諸設備はいよいよ整備充實を加へて堤體築造に水壓管發電機其他設備機械の据付に來年度こそ華やかなる建設進軍の譜を奏でんとしてゐる。

馳て遠からず堰堤竣功の暁は滿々5百平方畝の豐水を湛へ興亞の原動力となり200人乗大飛行艇は東京より一擧吉林へ飛來し遠くバイカルへ歐洲へと通

ふであらう。

尙本間局長の式辭を別に掲記する。

(康徳7年10月15日稿)

## 式 辭

茲に松花江第一發電所上棟の式典を擧ぐるに當り閣下並に各位の貴臨を辱ふし此盛儀を催し之を祝福するを得るは本職の最も光榮且つ欣幸とする所なり抑も本事業たるや曩に確立せる我國經濟建設計畫實現の緊要なる原動力として所謂水主火従の計畫に則り70萬キロワットの發電可能なる大堰堤を建設し併せて治水利水の綜合的の大事業の完成に銳意邁進し來り康徳4年11月起工以來約2年餘にして茲に發電所の上棟を見康徳9年春一部發電の域に到達せんとす。

惟ふに本事業起工以來現下の時局難資材難に逢着せるも關係各機關の協力と職員の献身的努力と近代技術の粹とは能く大自然を克服し本工事の工程進捗を回滑ならしめ着々豫定の工程を禍たず本日發電所の上棟を見たるは誠に欣賀に堪えざる所なり然りと雖も竣功の日尙遠きにあり局員と共に益々奮勵努力拮据黽勉全力を茲に致し冀くは神明の加護と官民各位の御援助に依り有終の美を完ふせんことを。

一言以て式辭と爲す。

康徳7年10月3日

水力電氣建設局長 本間 德雄